

# 中間報告書

2019年6月1日～2019年11月30日

第39期

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は2019年11月30日をもって、第39期第2四半期累計期間(2019年6月1日から2019年11月30日まで)が終了いたしましたので、ここに営業の概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2020年2月

代表取締役社長兼COO 長野 庄吾



## 営業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中通商協議及び英国のEU離脱交渉が依然として不透明なままであることから、先行きが見通し難い状況が続きました。また、国内環境におきましては、消費税増税前の駆け込み需要の反動による消費マインド低下の兆候もあり、全体としては不安定な状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループはリーディングカンパニーの最大条件を「ファンの多さ」と定義づけ「ファンづくり」を経営最大のテーマとして経営理念の実践を重ねております。

当第2四半期連結累計期間の売上面は、BtoC事業では、TVショッピングにおいて「スピードヒート温熱ベスト」、「ステップエイト(場所に合わせて8通りに変化する脚立)」等が堅調に推移いたしました。また、SKINFOOD店舗における新店の開設及び閉店はなく、その店舗数は直営店21店舗(前年同四半期21店舗)、フランチャイズ店2店舗(前年同四半期2店舗)の合計23店舗(前年同四半期23店舗)となり、店舗でのキメ細かな来店促進策の実施によりほぼ計画通りの売上で推移いたしました。

BtoBtoC事業では、マーケティングメーカーとして確固たる基盤を築くため、自社開発商品の売上比率を2020年5月期において40%まで高めることとし、商品開発に注力してまいりました。売上面では前第2四半期連結累計期間と比較して店舗ルート、海外ルートは増収いたしましたものの、生協ルート及び通販ルートは減収となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高8,810百万円(前年同四半期比5.8%減)、営業利益182百万円(前年同四半期比16.6%減)、経常利益180百万円(前年同四半期比20.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益109百万円(前年同四半期比25.6%減)となりました。

各セグメントの業績は次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年四半期比較につきましては、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

< BtoC事業 >

売上高は3,222百万円(前年同四半期比9.9%減)となり、営業利益は203百万円(前年同四半期比246.2%増)となりました。

< BtoBtoC事業 >

売上高は5,470百万円(前年同四半期比3.5%減)となり、営業損失は24百万円(前年同四半期は169百万円の営業利益)となりました。

< その他 >

その他は音声通話録音システム「VOISTORE」及びチャットシステム「M-Talk」等の売上高であり、売上高は117百万円(前年同四半期比4.1%増)となり、営業損失は12百万円(前年同四半期は11百万円の営業損失)となりました。

## 売上高

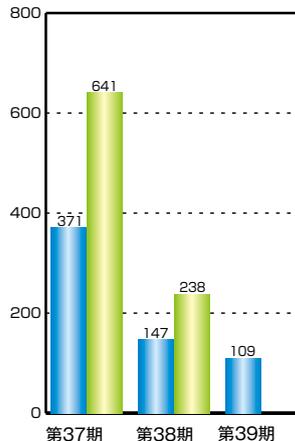
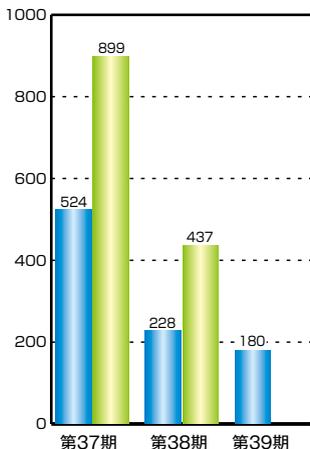
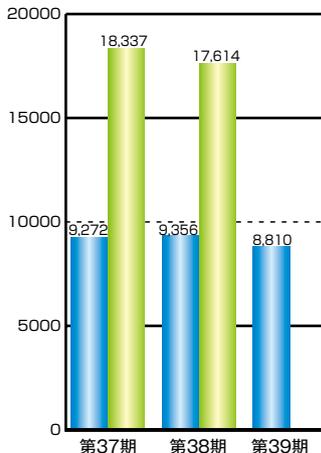
(単位:百万円)

## 経常利益

(単位:百万円)

## 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



# セグメント情報等

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額(注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
	BtoC事業	BtoBtoC事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,222,802	5,470,343	117,311	8,810,457	—	8,810,457
セグメント間の内部売上高 又は振替高	115,363	267,120	—	382,483	△ 267,120	—
計	3,338,166	5,737,463	117,311	9,192,941	△ 267,120	8,810,457
セグメント利益又は損失(△)	203,148	△ 24,727	△ 12,833	165,587	16,495	182,082

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額16,495千円は、連結消去に伴う調整額であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（単位：千円）

## 資産の部

## 負債・純資産の部

**流動資産：6,056,531**  
（前期末比：453,551増）

**流動負債：3,419,339**  
（前期末比：158,726増）

**固定負債：1,104,443**  
（前期末比：417,011増）

**固定資産：991,033**  
（前期末比：49,320増）

**純資産：2,523,781**  
（全期末比：72,865減）

（注）「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において組み替えております。

### 資産、負債及び純資産の状況

#### （資産）

当第2四半期連結会計期間末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ315百万円増加しました。主な流動資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が212百万円、「その他」が149百万円、それぞれ増加したことと、「商品及び製品」が66百万円減少したことによります。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ85百万円減少しました。主な固定資産の変動は、「有形固定資産」が13百万円増加したことと、「投資その他の資産」が95百万円減少したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の総資産は7,047百万円となり、前連結会計年度末に比べ229百万円増加しました。

#### （負債）

当第2四半期連結会計期間末の流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ296百万円増加しました。主な流動負債の変動は、「未払金」が115百万円、「その他」が95百万円、「1年内返済予定の長期借入金」が60百万円、「短期借入金」が60百万円、それぞれ増加したことと、「賞与引当金」が23百万円、「未払法人税等」が22百万円それぞれ減少したことによります。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ98百万円増加しました。主な固定負債の変動は、「長期借入金」が65百万円、「その他」が167百万円それぞれ増加したことと、「役員退職慰労引当金」が142百万円減少したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の負債は4,523百万円となり、前連結会計年度末に比べ394百万円増加しました。

#### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ165百万円減少しました。主な純資産の変動は、「自己株式」が148百万円増加したことによります。

## 四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	前第2四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)
売上高	9,356,742	8,810,457
売上総利益	4,268,308	4,199,933
営業利益	218,263	182,082
営業利益率	2.3%	2.1%
経常利益	228,294	180,980
経常利益率	2.4%	2.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	147,598	109,776

（注） 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結包括利益計算書

（単位：千円）

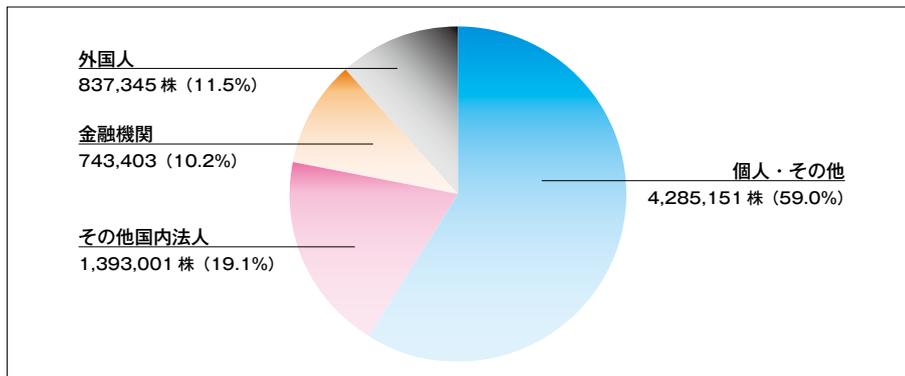
科目	前第2四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)
四半期純利益	147,598	108,578
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△ 312	2,674
為替換算調整勘定	—	△ 403
その他の包括利益合計	△ 312	2,271
四半期包括利益	147,285	110,849
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	147,285	112,047
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△ 1,197

（注） 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(1) 株式に関する事項

- ① 発行可能株式数 31,065,600 株
- ② 発行済み株式数 7,808,000 株 (自己株式 549,100 株を含む)
- ③ 株主数 4,519 名

所有者別状況



(注) 1. 自己株式(549,100 株)を控除しております。

(2) 大株主に関する事項

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
株式会社AM	1,140,000	15.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	302,100	4.16
MSIP CLIENT SECURITIES	273,285	3.76
鬼頭 洋介	230,600	3.17
飯田 裕	224,100	3.08
アイケイ取引先持株会	149,800	2.06
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNTS M LSCB RD	132,529	1.82
株式会社りそな銀行	128,000	1.76
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	128,000	1.76
飯田 清子	124,000	1.70

- (注) 1. 持株比率は自己株式 (549,100 株) を控除して計算しております。
- 2. 持株数は持株名簿に基づいて記載しております。

## ■ BtoC 事業

BtoC事業では、TV・EC・店舗で自社開発商品の販売を行ってまいりました。特にTVショッピングでは「スピードヒート温熱ベスト」や「ステップエイト」といったヒット品に恵まれ、業績は堅調に推移してまいりました。

### ◆TV・EC

TVショッピングでは前期テスト販売を行った自社開発商品「スピードヒート温熱ベスト」を今期から本格販売を行ってまいりました。従来品のブラックにワインレッドとグラスグリーンの2色を加え、2019年10月より全国のBS、地上波にて放映を開始いたしました。売上効率も昨年に引き続き好調に推移し、秋冬の主力商品となりました。

さらに、場所に合わせて八変化し、様々な用途に使える便利なハシゴ「ステップエイト」も、今期よりタレント起用型番組を新たに制作し、順調に売上を伸ばしました。



スピードヒート温熱ベスト



ステップエイト

### ◆店舗 (SKINFOOD化粧品)

店舗ではSKINFOOD化粧品の販売を行ってまいりました。今期は福岡パルコ店、名古屋パルコ店、広島パルコ店のリニューアルを行ったほか、10th記念の「スキンフードオールスターズキット」を発売するなど、ブランドの認知度向上に注力してまいりました。



商品名左から「ブラックシュガー パーフェクト ファースト セラム 2X エッセンシャル」「ロイヤルハニー プロポリス エンリッチ エッセンス」「ブラックシュガー パーフェクト エッセンシャル スクラブ 2X ビーチ」「スキンフード オールスターズキット」

### ◆今後の展望

- T V ・ E C : ①上半期にヒットした商品の更なるメディア放映枠の拡大及びブランディングの実施  
②ヒットの芽が出つつある商品の映像作り変え
- 店 舗 : ①オンライン販売拡大(自社サイト、楽天、ZOZOTOWN、Qoo10)  
②日本限定商品の投入

## ■ BtoBtoC 事業

BtoBtoC事業では、生協・通販会社・店舗(ドラッグストア等)・海外へと「美しく生きる・健康に生きる・楽しく生きる」をキーワードとした自社開発商品の販売・開発を行い、経営理念であります「ファンづくり」に注力してまいりました。

また、今期より海外子会社2社を連結し、海外への販売の拡大に注力してまいりました。

### ◆ LBを始めとした化粧品の販売

自社開発化粧品「LB」では新商品として「スパークリングリッチシャドウ」に加え、「3in1アイブ로우」の新色3色を発売致しました。発売開始から当初の予測を大幅に上回り、供給が追い付かないほど好調に推移しております。

更にWEBプロモーション施策と連動し、単品什器として約3,000店舗に導入致しました。現在では販売実績No.1の商品となっております。

### ◆ 海外での化粧品販売

自社開発化粧品「B! FREE +」は中国大手ECプラットフォームである「天猫国際」内での販売を開始いたしました。プラットフォーム内でキャンペーンを実施し認知拡散し、順調に売り上げを伸ばしております。

また、中国での衛生登録NMPA取得に向けて申請を開始し、今後の更なる拡販に向けた基盤を築いてまいりました。



LB 人気商品「3in1 アイブロー」



海外展開を開始した「B!FREE+」

### ◆ 今後の展望

- ① LB「ColleenMaliaWilcox」とのコラボアイシャドウの発売
- ② LB人気商品「パワーオブアイライナー」の限定ゴールドパッケージの販売
- ③ TV・Instagramを使った販促活動の推進
- ④ 「B! FREE+」の中国での更なる拡販



「ColleenMaliaWilcox」とのコラボアイシャドウ

## 会社の概要 (2019年11月30日現在)

商号	株式会社アイケイ (I.K Co.,Ltd.)
資本金	401,749 千円
代表者	飯田 裕、長野庄吾
設立	昭和 57 年 5 月
従業員数	111 名
連結従業員数	232 名
本社	〒 450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目 26 番 8 号 KDX名古屋駅前ビル TEL (052) 856-3101 (代表) FAX (052) 856-3120 URL <a href="https://www.ai-kei.co.jp">https://www.ai-kei.co.jp</a>
東京支社	〒 104-0061 東京都中央区銀座一丁目 7 番 3 号 京橋三菱ビル 7 階 TEL (03) 5159-5355 FAX (03) 5159-5359
(本店)	〒 453-0809 名古屋市中村区上米野町四丁目 20 番地
役員	代表取締役会長兼 CEO 飯田 裕 代表取締役社長兼 COO 長野 庄吾 常務取締役 高橋 伸宜 取締役 熊澤 敬二 取締役(常勤監査等委員) 近藤 さきえ 取締役(監査等委員) 櫻井 由美子 取締役(監査等委員) 和田 圭介

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで  
定時株主総会 毎年8月中に開催  
剰余金の配当の基準日 期末配当：5月31日 中間配当：11月30日  
証券コード 2722

上場金融商品取引所 東京証券取引所（市場第二部）  
名古屋証券取引所（市場第二部）

株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711（通話料無料）  
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公 告 方 法 当社の公告方法は、電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載して行うこととしております。  
<電子公告掲載ページアドレス> <https://www.ai-kei.co.jp/ir/koukoku>

## （ご注意）

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）に、お問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

